

# 新 春

## 水源の里だより

### 水源の里まいばらに広がる 若者たちの絆と共感

澄んだ空気や美しい水を生み出すという、人々の生活に欠かせない役割を果たしてきた日本の農山村地域では、過疎・高齢化が深刻化しています。

それは米原市においても例外ではなく、特に若い世代の都市への流出は、米原市の未来を考える上で、大きな問題となっています。

こうした中、平成21年度に制定した「水源の里まいばら元気みらい条例」は、これまで上流（農山村）から下流（都市部）へ流れる一方だった人や物の流れに加え、下流から上流へと新しい新たな流れを作り出し、上流と下流の支え合いの関係の中で様々な資源が循環する地域社会の形成を目指しています。

そのため、条例制定以降、市では米原市全域の集落を「水源の里」と位置付け、その価値や魅力に光を当て、それらを資源として活かすための取り組みを進めてきました。

テレビドラマでも題材にされるなど、全国的に取り組みが広がっている「地域おこし協力隊」。

市では、この地域おこし協力隊を「みらいづくり隊員」と称し、農山村地域を舞台に、自身の夢やライフスタイルの実現を目指す人材を招き入れる制度として平成23年度から実施しています。

この制度により都市部から移住してきた20代前半〜40代前半の男女7人の隊員は、それぞれの目標を持ち、苦悩と向き合いながら活動を続けており、そのような隊員の存在は、各所で同世代の若者たちからの共感・共鳴を呼んでいます。

今回は、「みらいづくり隊員」の存在が呼び水となる形で始まった、米原市を少しでも良くしていこうという志を持つ若者たちの活動にクローズアップします。

### 伊吹の天窓実行委員会

里おこしイベント「伊吹の天窓」は、みらいづくり隊員がきかつけをつくり、地元若者や都市部に住む地元出身者などを主催者として巻き込みながら開催されました。実行委員会では、イベント運営だけではなく、ウェブサイトの運営や「イブツキ行進曲（雪ふみ行進）」など、地域の内外へ米原の魅力を伝える新たな展開も企画されています。



今年度の「伊吹の天窓」イベントの様子  
URL▶<http://ibukinotenmado.com/>

### 米原の未来をよくする会「10日会」

この会は、米原市内やその周辺で活動する20代〜40代の様々な業種の若者が集まる場として平成23年11月から開催されています。

きっかけとなったのは、みらいづくり隊員と市内の若者との対談企画。その中で、「米原の未来を良くするためには何か具体的なことを始めよう！」という話が盛り上がり、最初に実現したのがこの集まりでした。

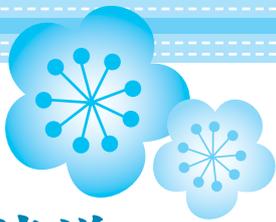
みらいづくり隊員が経営するカフェを主な会場にして、毎回自由に意見が交わされる10日会。肩ひじの張らないゆるい「空間は、米

原市を盛り上げようとする若者たちのゆるやかな連携を生む交流の場となっています。



毎月10日に例会が開催されることから、通称「10日会」と呼ばれ、毎回10〜20人の若者が集まっています。

# 市長から 市民の皆様へ



市民の皆様、新年明けまして おめでとう  
ございます。

平成25年の輝かしい新春を健やかにお迎え  
のことと、お慶び申し上げます。

今年は「巳年」。へビは脱皮を繰り返し成長  
することから「復活と再生」の象徴とも言わ  
れています。今年も行財政改革を推し進め、  
米原市政の発展に邁進してまいります。

昨年は、原子力発電所の再稼働問題や節電  
対策、いじめ問題など、安心と安全があらた  
めて問われた年になりました。一方で、日本  
中が空を見上げた金環日食や、ロンドンオリ  
ンピックなど、震災から1年、明るい話題が  
多かった年でもありました。

私が市長に就任してまもなく4年が経とう  
としておりますが、長年の最重要課題で  
ありました「米原南工業団地」へ優良企業  
を誘致しました。今後は、期待される雇用  
や地域経済の発展とともに、にぎわいのあ  
る米原市の実現に向けて、引き続き、米原  
駅東口周辺まちづくり事業にも全力で取り  
組んでまいります。

また、山東グラウンドの整備や近江地域の  
総合型体育館の着工とともに、災害時の応援  
協定や民間団体等とのまちづくり協定、市独  
自の原子力災害対策に取り組んでまいりまし  
た。さらに、認定こども園の整備など子育て  
・子育て支援と、保健・福祉・医療の連携  
による在宅医療・在宅介護体制の充実を図  
り、市民の皆様が健やかに安心して安全に暮  
らせるまちづくりを進めてまいります。

今年は、天野川の堰を果敢に上るピワマス  
にならない、米原市政においても更に飛躍で  
きる1年になりますよう「絆で築く元気な米原  
市づくり」に取り組んでまいりますので、本  
年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成25年 元旦

米原市長 泉 峰 一

番組案内 お正月だよ！伊吹山テレビ

## みらいつくり隊と 泉市長の新春座談

1月1日(火)～1月3日(木)放送！

みらいつくり隊の1期・2期隊員が総出演。活動を通じて感じ  
るまいばらの魅力、そして自分たちの「みらい」について語り  
ます。ぜひご覧ください。

新春プレゼント みらいつくり隊からの贈り物



1

田中訓隊員から  
花梨飴(1名様)

地元のカリンを煮詰めて作っ  
た一品。紅茶に入れるとほん  
のり甘く、優しい香りが広が  
ります。



2

早川鉄兵隊員から  
切り絵セット(1名様)

森や動物たちが繊細に表現さ  
れた切り絵の世界。切り絵・  
ポストカード・手ぬぐいのセ  
ットです。



3

舟橋麻里隊員から  
イブツキ行進曲CD(3名様)

「雪ふみ行進」のテーマソング。  
今シーズンの雪かき作業は、  
楽しく雪を踏みながら踊って  
みよう！

### 応募方法

ハガキに次のことを明記のうえ下記まで。当選の発表は発送をもっ  
てかえさせていただきます。

- ①住所・氏名・電話番号
- ②ご希望のプレゼント番号をひとつ
- ③みらいつくり隊へのメッセージ
- ④広報まいばら・伊吹山テレビへのご意見

応募先

〒521-8501米原市下多良三丁目3番地  
米原市広報秘書課「新春プレゼント」係

締切  
1月31日  
(木)  
必着



10日会での交流がきっかけとなって結成された  
グループ「まいばらフリーペーパー」は、無料  
のタウン情報誌「まいスキッ！」を編集・発行  
(Facebookページ「まいスキッ！」参照)

「まいばらフリーペーパー」  
の結成  
(「まいスキッ！」編集部)



10日会がきっかけとなり開催された「Rice  
Rose Market (米原マーケット)」の様子。市  
内の他団体「Myばらプロジェクト」との連携も  
行われました。

米原マーケットの開催  
(RICE ROSE Market)

《水源の里振興室から》

今回は、3月末の任期終了を目前にして活動が本格化している第1期隊員の松崎隊員と田仲隊員の現状を報告。ドラマとはちょっと違う(?)「みらいつくり隊員(地域おこし協力隊)」の今をお伝えします。



伊吹マーケットへの出品や、ホームページの開設などに興味をお持ちの方や団体のみなさん、ぜひご相談ください！ご連絡はinfo@bukyat(あつ)伊吹・松崎)まで

みらいつくり隊員(第1期)

まつさき 淳さん

## インターネットによる 事業展開を模索中

インターネットマーケティングに携わってきた知識と技術を活かして、ホームページ制作の請負や通信販売サイトの運営などで生計を立てようとしていている松崎さん。

市の支援が受けられるみらいつくり隊員の任期終了を間近に控え、先日、地元米原の商品を取り扱うネットショップ「伊吹マーケット」を開設されました。

「出品する商品がまだまだ足りない状況です。地元の方々からどうやって商品を集めるかが課題になっています」と現状を冷静に分析しつつ、将来への意欲も話してくれました。

また、松崎さんは「米原IT推進部」という団体を結成していますが、この団体から提案された「伊吹山テレビ文字放送情報オンライン化※」は、まいばら協働事業提案制度の平成24年度実施事業に採択されています。

まちづくり団体の

後押しができるようなことも  
やっていきたい

さらに松崎さんは今年度、地域の特色を活かしたまちづくりの支援を行う「伊吹地域創造会議」の副座長を務めています。

「色々な団体との接点を作り、今後の活動の幅を広げたいと思い応募しました。今後は、これまでの地域活動の経験などを活かし、市内の団体や自治会のまちづくりのお手伝いのようなことを仕事にできないかとも思っています」と語る松崎さん。人口減少や高齢化が進む中、もう一歩を踏み出せない団体や自治会の後押しをしたいという思いのようです。

最後に、任期終了を間近に控えた今の心境を尋ねました。

「任期終了後も本当に生活していけるのか不安も大きいですが、自然に囲まれた田舎でありながら、都会とそれほど変わらないような生活ができる、そういう米原ならではのライフスタイルを実現したいと思っています」と、熱い思いを語ってくれました。

自分の得意分野を生かし、市内のまちづくりに貢献されている松崎さんを今後もみんなで応援しましょう。

## 伊吹山テレビ文字放送情報の オンライン化について

行政放送「伊吹山テレビ」で放映されている文字放送は、一定の時間帯にならないと見ることができず、自分が知りたいと思ったタイミングでその情報を入力することができないという面がありました。

そこで、文字放送情報をインターネット上に掲載し、いつでもどこでも情報を入力できる体制を整えようと「米原IT推進部」から提案されました。

この取り組みは既に開始されており、制作された「伊吹山テレビOnline」は、市公式ウェブサイトからもアクセスできます。



「伊吹山テレビOnline」のトップページ画像  
URL▶<http://ibukiyama.tv/>



**no-ho-ho-n tanacafe**  
 住 所 ▶ 米原市甲賀253-1  
 ※「旬彩の森」から姉川に沿って  
 県道を北へ約10キロ  
 営業時間 ▶ 土・日・祝日の11時～17時  
 (平成25年3月まで)  
 ※4月からはフルオープン予定  
 連絡先 ▶ ☎56-1370  
<http://n-tanacafe.jugem.jp/>

地元の“ばーら”が作った有機野菜の店頭販売もしています。本来の味がしっかりと味わえる新鮮野菜やお漬物を味わってみてください。



みらいづくり隊員(第一期)  
**田仲 訓 さん**

こだわりの  
**古民家カフェ、始動!**

師匠と仰ぐ地元のばーら(おばちゃん)に手ほどきを受けながら野菜や果樹の栽培と加工品の試作を繰り返す一方で、手作業で店舗の整備も進めてきた田仲さん。

その田仲さんのお店「no-ho-ho-n tanacafe(のほほん タナカフェ)」が、先日プレオープンを迎えました。本格オープン予定の4月に備え、まずは休日のみの開店となっています。プレオープン初日は、お祝いのお客さんに来店していただきとてもうれしかったです。まだ慣れてませんが、緊張もしていたのですが、来客のペースがゆったりしていたので、なんとかスムーズに営業できました」と話す田仲さん。

このお店では、地元産のヨモギ・ラズベリーなどを使用した各種ワッフルや、デザートにもなるお漬物などの加工品が提供されていますが、それらの商品には、多彩な経験(雑

貨屋や和菓子屋、アメリカで寿司職人など)を持つ田仲さんならではのこだわりが注がれています。

**地元の人たちが、  
 そして伊吹を知らない街の人が、  
 楽しめる場所に**

店名の「no-ho-ho-n」については田仲さんの性格が「のほほん」としたイメージだとよく言われることが由来だということです。

お店にはカフェスペースも備えていることから「山里の古民家カフェで、本でも持つてのんびりと過ごしてもらいたい」という思いも店名に込めたという田仲さん。「地元の人たちが畑仕事の合間にくつろげるたまり場になればいいなと思っていますが、伊吹という素晴らしい自然がある地域をあまり知らない街の方々にも来店いただけたらいいと思っています」と語っておられました。

みらいづくり隊の田仲さんが地元のばーらと共に創りだした「no-ho-ho-n tanacafe」。地域への思いやりやつながりも感じられる空間に仕上がっているようですね。

**第2期隊員の近況**

平成24年4月から活動を開始した  
**第2期隊員も奮闘中です!**

**柳生のび隊員**：水源の里まいばらの豊かな自然の魅力を活かすリラクゼーション事業を展開しようと活動しています!

**近成英樹隊員**：地域の活性化・自然体験活動の企画に向けて地元資源の調査やスキルアップに励んでいます!

**加藤電真隊員**：地元の方々と獣害対策に取り組みながら、見習い猟師として頑張っています!



お問い合わせ 水源の里振興室(伊吹庁舎) ☎58-1121 ☎58-1630